みんなのスペース

ぼくのゆめ

ささき しゅん くん
（大浦保育園・６）

大きくなったらプロ野球選手になりたいです。ピッチャーになっていっぱい三振をとるぞ。

熱意伝わる作品に時を忘れた休日

今年も町民芸術祭の作品展に足を運びました。

毎年、軽く見て回ろうと思うのですが、会場へ一歩入るとそうはいきません。見覚えのある名前を目にしたり、目を見張る数々の作品に作者の方々の熱意が伝わってきたり、自然と足が止まり時間の経つのも忘れてしまいます。おかげさまで快い休日となりました。

３カ所もの会場を巡って鑑賞するには多少なりとも体力が要り、普段の運動不足も反省させられました。そんな私の勝手な思いなのですが、どこか一角にでも一般の見学者用のちょっとしたお休み所があればありがたいなあ、と思いました。

附田心（飯岡・48）

作る喜び味わった文化祭への出品

秋になると文化祭に向けての声が聞こえてくる。何か出品したいとあれこれ考えて日傘に決めた。古くなった日傘の表替え、表布はどこの家庭にもある木綿の風呂敷を利用し、仮縫いして本体に合わせ、バランスをみながら苦心して出来上がったときの喜びは、自作した人でないと味わえないと思う。自分で、下手でもよくやったと作をながめながら、根気に満足感。自作で余生を楽しみたいと思っている昨今である。

菊地サカヱ（織笠・73）

念願かなった自衛隊基地見学会

10月31日、高齢者大学地区教室のイベントとして船越地区福寿会で「航空自衛隊山田分屯基地見学会」が行われたが、抜けるような好天に恵まれたその日の参加者は25人余りだった。私は車酔いを気にしたのだが、車両からの紅葉や下界の眺望に見とれ、酔う暇もなかった。今どき基地までの道路が舗装でないのが気になり、ガイドの隊員さんに聞くと、冬季間は路面の凍結によるスリップ事故の無いようにとのことで、納得した。やがて基地に着き下車すると、下界の遠望は異国にでも行ったような錯覚さえ感じた。荒神、弁天島など目にしたとき、つくづく山田に生を受けた幸福感が心に込み上げてくるのを覚えた。そして楽しみの昼食はやはりバイキング式で、カレーライスがまた基地ならではの風味で舌鼓を打った。その後、基地内見学では第37北部航空警戒隊の名のもとに昭和32年に展開以来、太平洋守護神として国防の役を担っているという。そして全国からの隊員の中で地元出身者に会ったりしたが、山田弁で会話したとき、親近感がわき緊張の薄れるのを覚えた。

基地内施設の見学を終え午後１時半頃に下山したが、帰路は公民館前まで30分、私たちは身近なこの基地を目のあたりにして、日ごろの念願がかなった見学会だった。

齋藤忠雄（船越・83）

やまだ文芸広場

秋深く紅葉踏み分け鳴く鹿の
声ぞ聞く時秋は悲しき
菊地孝進（船越・86）

月あかり心安らぐひとときの
親友なりて人生語る
大町テイ子（大沢・？）

仏前に座りて拝む男孫やさし
母の遺影にかすかなる笑み
大川ヒメ子（大沢・64）

手料理ほおばる孫にいやされて
山崎栄子（船越・59）

永らえて今更しのぶ海ゆかば
ペンネーム・菊地閑悟（山田・87）

人間も冬眠するか灯油高
佐藤兼男（荒川・82）

「幸せのクローバー」
幸せのクローバー（４つ葉のクローバー）は、なかなか見つからない。でも、身近な所に幸せのクローバーはあるのです。
①動けることの幸せのクローバー
②３食ご飯が食べられる
幸せのクローバー
③物があるから生活できる
幸せのクローバー
④支えてくれる人がいる
幸せのクローバー
⑤生きてこれたことの
幸せのクローバー
⑥笑顔いっぱい幸せのクローバー
⑦どんなことがあっても負けない
強さのクローバー
⑧両親へ育ててくれてありがとう、
感謝のクローバー
⑨いつまでも忘れずにいたい
クローバー
佐藤啓子（船越・？）

イラスト

アンパン（13）

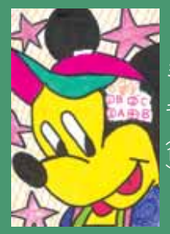
マリオ（10）

山崎寛奈（８）

BeTTY'S BLUe（11）

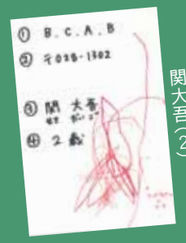
坂本ひより（12）

AO（？）



ミッキー（11）

姫神（13）



関大吾（２）

Miho（？）

湊としき（10）

リロイ（11）

福舘萌（９）

沼崎優花（11）

山田よいとこ好きな町（19）

関谷の平安荘の真向かいに「杉の下」佐藤家の手長大明神がある。樅（もみ）の木の大木がそそり立っているのですぐ分かる。この樅の木は、日露戦争のとき関口の出征兵たちが記念に植えていった木だそうです。とすると、植えてから約90年になるのだろう。木の下に大きな岩があって、この小山に祭ってあるのが手長明神様である。村の長老の話では、集落に悪い者がやってくると、その長い手で捕らえて懲らしめたのだそうだ。こんな昔話を聞くと、村人の古き良き時代の生きざまが思い浮かび、夢見る心地がするではないか。

ここからまた関口川を下り少し行くと、道路の右側に小さなお地蔵さんが祭られている。お話によれば、なんでもまだ幼い小学生の男の子が車にはねられ亡くなった場所だそうだ。その死を哀れんだご家族が、事故の場所に小さなお地蔵さんを建立して交通祈願をなさったとのこと。見るからにかわいいお子さんの表情をした小さな像である。拝してお顔を眺めると、かすかな笑みをたたえて、何とも心に染みるお顔をしている。今やモータリゼーションの時代、お互い交通安全にはくれぐれも心すべきだとあらためて教えられる場所である。

なお、川を下って関谷橋の袂（たもと）に、太平洋戦争の終戦に近いころ山田湾で戦死なさった海軍兵の方々を祭った記念碑があることは、多くの皆さまもご存知と思いますが、実はこの方々はわたしの戦友です。太平洋戦争の開戦直前から終戦まで足掛け５年もの長い間同じ艦隊に所属して、いわゆる苦楽を共にし最後まで戦い続け、終戦を迎えた掛け替えのない戦友の方々です。敵機の奇襲で亡くなられた方々のご遺体は、先に述べた手長明神の場所で荼毘（だび）にふされ、この橋の袂に祭られました。このことについては私ごとになりますので詳細は省きますが、町立図書館にある「あゝ一号掃海艇」や「海ゆかば」の貸し出し本に詳しく書かれていますので、ぜひお読みくださるようお願いします。

（つづく）

ペンネーム・山田北州（山田・87）

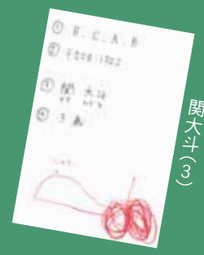
坂本よしえ（44）

チェリー（11）

スマイル君（？）

福士正子（69）

湊ゆうき（８）



関大斗（３）

心動かされた「やまだの歴史人物誌」

11月１日号の「やまだの歴史人物誌」（佐藤仁志様著）にて、下山清と白土キクさんの結びつきが詳しく述べられていました。山田短歌会元会長の故浜村半蔵先生がお元気な折、歌会にて教わりましたので懐かしく再び感動致しました。下山清の歌集「わくら葉」も読みました。

浜村先生に亡くなられ、作歌する気力もなくして３年、短歌会は続けるようにとの先生の遺言に背き休んでいた自分を恥ずかしく思い、先生に申し訳なく反省しております。やまだの歴史人物誌を執筆してくださった佐藤仁志様に感謝し、少しずつ歌を詠（よ）む自信を取り戻すことができました。

目も見えず耳も聞こえぬ四重苦の歌人下山清の歌碑と、隣に移動された西塔幸子の歌碑に手を合わせて参りました。

佐藤豊子（境田町・69）

◆**投稿規定**　▷住所、氏名、年齢、電話番号を明記。ペンネーム、匿名での掲載を希望する方はその旨をさらに付け加えてください▷住所、氏名が記入されていないものは掲載しません▷営利・政治的活動を目的としたものや、特定の個人・団体をひぼう・中傷するものは掲載できません▷投書を添削することがあります。
◆**あて先**　〒028－1392（住所不要）山田町役場総務課情報管理担当へ。